

平成 29 年度 第 6 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

岡田公治 井沢澄雄

6th Activity Report, December 2017: Committee of Study Groups

Koji Okada Sumio Izawa

研究委員会では個別テーマ毎の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 29 年 12 月 1 日現在の各研究会活動の予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会への参画を是非、お願いいたします。

1. 研究会の活動状況

(1) リスク・マネジメント研究会

(主査：木野 泰伸 筑波大学)

本研究会では、プロジェクト・リスクに関する研究を行っており、活動成果を研究発表大会や ProMAC で発表してきました。2018 年は、

- ・リスク・マネジメント教育
- ・テキスト分析を用いたリスクモデル

をテーマとした活動を行う予定としています。現在、新メンバーの募集を行っておりますので、本テーマに興味のある方は是非ご参加をお願いいたします。

【詳細問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

(2) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査：河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

<直近の活動実績>

11 月 20 日：定例会開催

[場所：豊洲センタービル 21 階 D 会議室]

作成中の『ICT スマートタウン』導入・展開のためのガイドラインについて、レビューおよび成果報告の方法、研究会フォーラム案についてディスカッションを実施しました。

[議事内容]

- ① ガイドラインについては完成の目途が見えてきたため、その成果報告の手段などをディスカッション。

- ② 成果報告の方法をいくつかパターン化して整理を行った結果、「研究会フォーラム」を開催することを検討してはどうか。

- ③ 「研究会フォーラム」について、案版を作成し、次の研究会で議論することになった。

<今後の活動予定>

1 月中旬：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 yamamotot@nttdatacs.co.jp (山本)

(3) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システム)

月 1 回の定例会と年 1 回のワークショップを中心に活動しています。



岡山ワークショップの様子 (11 月 22 日)

<直近の活動実績>

10 月 18 日：定例会開催 (ワークショップ準備)

11 月 15 日：定例会開催 (ワークショップ準備)

<ワークショップ in 岡山実施概要>

日時：2017 年 11 月 22 日 13:00-17:30

場所：岡山県立図書館多目的ホール

参加者：22 名

まず、「人と組織と心を育むつながり力 (NQ)」と題して一般社団法人ヒューマンコンシェルジェ

後藤勉氏にご講演頂きました。政治家の握手の違いなど実演を織り交ぜながら「傾聴・受容・共感・同調・親和」を通じた「ネットワーク構築力（つながり力）」の大切さを教えて頂きました。

次に、メンタルヘルス不調を予防するためにはどうしたらよいかというテーマでワークショップを行いました。4 チームからアウトプットされた華やかで力強い提言は、まさに「つながり力」の賜物でした。

最後に、ライトニングトークスとして5人の方に5分間ずつミニプレゼンを実施頂きました。起業支援・技術創造・夢写真などの切り口の違う「野望」をテーマにした講演は、参加者のワクワク感を呼び起こすものでした。

<今後の活動予定>

12月20日：定例会開催予定

1月17日：定例会開催予定

2月21日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(4) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査：梶山 昌之 ワイハット)

当研究会の学習・研究テーマとしては以下の6つになります。

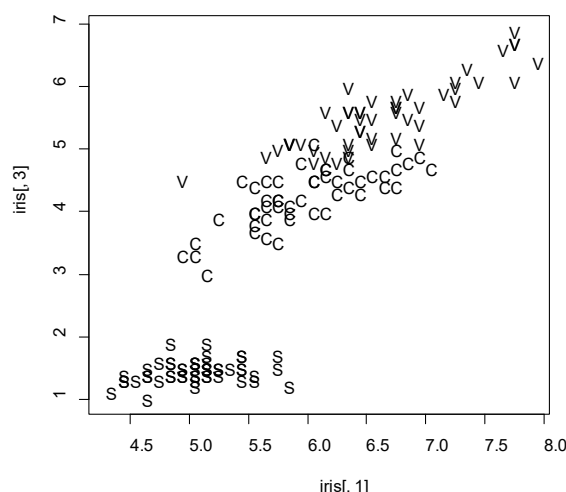
- ① 要求を仕様化する技術
- ② R 言語の学習と活用
- ③ アナリティクス手法の学習と活用
- ④ ソフトウェアメトリクス統計分析
- ⑤ 人工知能と機械学習
- ⑥ Python の学習と活用

上記のトピックの中でも、現時点では、③～⑥に力を入れています。

実務ではデータの持つ特性からデータを分類する必要が発生する場合があります。例えば、あやめの花は *Setosa*, *Versicolour*, *Virginica* の3種があります。これらの種は花弁の長さとおよび萼片の長さとおよび幅に特徴があります。以下の図は、花弁と萼片の長さのデータを3種のあやめの記号(S,C,V)でプロットしたものです。これを自動的に判別するにはどうしたらよいでしょうか。

その手法の一つに線形判別分析があります。その方法によれば、95%程度の正解率を得ることができます。

一方同じ問題を、機械学習でも解くことができます。この場合は、Python を使い、TensorFlow と Keras のライブラリを使うと簡単に実装できます。この場合にも、95%程度の正解率を得ることができます。



このように、同じ問題でも、まったくアプローチの異なる2つの解法が存在することになります。

どちらの方法が優れているのでしょうか。あやめの判別の事例では、どちらも同等の正解率になりましたが、一般的には、問題の特性により異なるのではないかと考えています。

当研究会では、そのどちらの手法についても基礎から学び、プロジェクトの課題を解くための方法として活用する方法を研究中です。

<今後の活動予定>

1月16日：定例会開催予定

2月13日：定例会開催予定

3月13日：定例会開催予定

4月10日：定例会開催予定

会合は1回/月（原則として第2火曜日18:30~20:30）開催しています。ただし、毎回、発表者、参加予定者、会場の都合を反映して、開催日程を調整しますので、予定が変更になる場合があります。

当研究会では過去の学習コンテンツを蓄積しており、研究会メンバー参加者はこれらのコンテンツを社内の研修や論文作成などに活用できます。

また、毎回独立したテーマで参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので途中からの参加も歓迎です。

【詳細問合せ先】 kajiyama@yhat.co.jp

(5) PM 人材育成研究会

(主査：池田 修一 ポジティブ・ラーニング)

これまでステークホルダーについて継続して議論を行っており、前回（2017年10月6日 6名参加、11月30日 5名参加）はステークホルダーの

価値観について、「キャリア・アンカー」をテーマとして議論しました。

新規事業の創出や全社的な業務改革などのプロジェクトは組織横断、つまりクロスファンクショナル（CFT）のメンバーからなり、各機能組織から選出されたメンバーが前提となります。CFT が軌道にのるかどうかはチームの方向性をメンバー間で一致、あるいは一体化した運営ができるにかかっています。そのためにはメンバーのプロジェクトへの関与の状態を知ることが必要です。PMBOK のステークホルダー・マネジメントでは関与度を 5 段階、つまり指導、指示、中立、抵抗、不認識で分類しており、現在と将来の望ましい関与度のギャップを分析します。プロジェクトオーナーの関与度は、通常指導的立場にあります。各機能組織から選出されたプロジェクトメンバーの関与度は必ずしも、指導や指示とは限らず、中立、抵抗、不認識ということもあります。このメンバーを指導や指示の状態にもっていくには、プロジェクトマネジャーとして、コミュニケーション方法、人間関係のスキル、マネジメントスキルをプロジェクトメンバーの関与度を高めていくことが重要です。

特に人間関係のスキルを考える上で、MIT スローン経営大学院名誉教授のエドガー H シャイン博士の研究成果の一つである「キャリア・アンカー」の適用を研究会として有効であると考えております。「キャリア・アンカー」とは、ある人物が自らのキャリアを選択する際に、最も大切な価値観や要求のこと、また、周囲が変化しても自己の内面で不動なものであり、「自己概念」、「セルフイメージ」のことです。「キャリア・アンカー」は以下の 8 種類があります。

- ・ 専門・職能的コンピタンス
- ・ 全般管理コンピタンス
- ・ 自律・独立
- ・ 保障・安定
- ・ 起業家的創造性
- ・ 奉仕・社会貢献
- ・ 純粋な挑戦
- ・ 生活様式

これらの種類に対して、プロジェクトメンバーがどれに当てはまり、プロジェクトマネジャーとしてどのようにメンバーと付き合っていくか等を様々な観点から検討しました。

今後は、この「キャリア・アンカー」に加え、メンバーの価値観を見極め、プロジェクトへの参加意欲を高めて、プロジェクトをより成功させるためのステークホルダー・マネジメントを引き続

き検討していく予定です。

<今後の活動予定>

12 月 22 日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmcom2016@freeml.com

(6) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

（主査：横山 真一郎 東京都市大学）

QFD（Quality Function Deployment：品質機能展開）の考え方は品質管理だけではなく様々な活動にも援用することができます。プロジェクトを円滑に進める際にも、情報の共有や知識の蓄積のために QFD の活用は有効です。当研究会では、研究会メンバーから提示される実際の現場における課題について QFD の応用という観点から議論を重ねています。

研究会の初期の段階では、顧客あるいは依頼先の要望を如何に誤解せずさらに漏れなく設計に反映するかについて議論しました。そして新しい QFD のフレームなどを開発しました。さらに、要求品質の本来意味するものは何か、それを理解するためにステークホルダーをどのように整理したら良いのかなどについても議論しました。

最近では、QFD 手法の開発のみならず、プロジェクトの進捗管理のための情報の定量化や QFD を活用したシステム設計、さらにリスク分析など、様々なテーマに積極的に取り組んでいます。

12 月 15 日の定例会では、成功プロジェクトと失敗プロジェクトの初期段階の EVM データを比較し、QFD での要件定義を踏まえた考慮事項を議論しました。今回の議論では、初期段階が与えるプロジェクト終盤への影響が確認でき、QFD における段階的な落とし込みにあるような論理的に要件定義と設計を進める枠組みが重要、とディスカッションが進みました。

研究会の成果物は、研究発表会や国際会議において発表し、論文投稿を研究会メンバーに奨励しています。多くの PM 学会の会員の皆様のご参加をお待ちしています。

<今後の活動予定>

1 月 26 日：定例会開催予定

2 月 23 日：定例会開催予定

3 月 23 日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 yokoyama.ims.tcu@gmail.com

2. 第 39 回 PM トライライトサロン開催報告

第 39 回 PM トワイライトサロンを 10 月 25 日に東京（八重洲）にて開催しました。東北インフォ



第 39 回トワイライトサロンの様子（10 月 25 日）

メーション・システムズ株式会社（TOiNX）の佐藤浩明氏を講師としてお招きし「ソフトウェア開発プロジェクトにおける工数見積りの妥当性評価

手法」をテーマに，実プロジェクトから収集された実績データとその分析経験に立脚した中身の深い濃い内容が分かり易く紹介され，参加者（55 名）からも多数の質問があり，充実した討論が行われました。

3. その他

活動中の研究会への参加希望や，新規研究会の提案に関する問合せは，下記までご連絡をお願いします。

【問合せ先】 pmkenkyu@spm-hq.jp

研究委員会委員長	岡田 公治
研究委員会副委員長	井沢 澄雄
研究委員会担当幹事	高田 淳司